6．　快適音環境を目指す初歩的試み－サウンドスケープを踏まえて－

近年，サウンドスケープなる言葉をしばしば聞く様になって来ているが，未だ一般社会に浸透しているとは思えず，その何たるかは大多数にとって曖昧模糊としたものであろう。この言葉は，カナダの音楽家マリー　シェーファーが音を意味するサウンド（健全なをも意味する）と風景を意味するランドスケープを合体させた言葉であり，その意味するところは，我々の周囲に存在する個々の音を解析的に捉えるのではなく，それらが集まった全体を風景として評価して行こうとするものである。言わば，解析に対する総合である。この言葉が音楽家達によって輸入された当初，言葉としてはサウンドスケープよりもサウンドスケープデザインが多く用いられた結果，設計として音を付加する面が強く打ち出されるきらいがあった。音楽家の創作意欲としては当然のことと思えるが，騒音制御に携わる研究者や技術者それに行政にしてみれば余計な音をこれ以上加えて欲しくなかった。その後，多くの人々の努力で両者の溝は少しずつ埋まりつつはある。何故ならば，共に良い音環境を目指すことに変わりはないからである。

都市の音が，現在，無秩序に散らばっている事実は明白である。騒音の削減は当然であるが，技術的に困難であればその音を好ましい音で覆うマスキングという設計手法があるし，良い音でも時に騒音となってしまう危険を避ける設計手法もハードとソフトの両面から考えられる。即ちデザインである。

ここでは，音を創り出し社会に付加することで環境を改善しようとする手法を住民が受け入れるものなのか（Ｑ８），そして，付加された音を最も利用したいと欲している視覚障害者のあるべき音環境について，音に依拠する必要性が低い健常者はどの様に感じているのかを調べた（Ｑ１３．２　自由意見）。また，地域を象徴する音が存在するのであれば，そこの音環境を改善する際に上手に使える可能性が高いと考えられるので，その様な音を調査した（Ｑ６，Ｑ７）。更に，今の住民が気に入っている音環境とは具体的にどの様な場所であるのか，将来の参考にすべく質問した（Ｑ１３．１）。

６－１　音を利用する音環境の改善

サウンドスケープが一般的な言葉とは考え難いので，「音づくり」という言葉を

代わりに使い，これを利用する音環境の改善手法を「知っている」のか否かを問い，その手法に対する意見を肯定「良いことである」から否定「反対である」までの10項目から択一で選ばせた。

6－1－1　サウンドスケープ的概念の浸透度

横浜には日本初のサウンドスケープデザインとして有名な西鶴屋橋（橋の振動をセンサが感知し欄干から微小な音が鳴る）があり，マスメディアにも取り上げられていたが，音づくりを用いる環境改善手法を「知らない」者が1120人（90.7%）と圧倒的である。「知っている」者は僅かに71人（5.7%），無回答が49人（4.0%）で，認知率は非常に低い。

サブの質問でこの手法の具体的な事例を知っているか否かを質問したが，適用事例を知っている者は65人（5.3%）とこれまた少数である。1083人が「知らない」と答え，92人が無回答である。

何れにしてもサウンドスケープ的概念が知られていないことは明らかだし，適用事例も殆ど知られていない（但し，後述する様に西鶴屋橋のデザインを知る者は数名いた）。

6－1－2　音を付加する音環境改善手法に対する意見

音の付加に対して住民が表明した意見を**図6－1**に示す。肯定的意見は，「良いことだと思う」（10%），及び条件付き肯定の「多くの人が受け入れる音を使うならば良い」（19.1%），「音を使用する場所と時間を考えるならば良い」（21.8%）となっており，合計では約半数である。否定的意見では，「騒音を減らすのが先だ」が14%，「音の好みは人それぞれだからあまり賛成できない」が13.1%とこの両者が主である。なお，「今ある良い音環境を保存する方が良い」とする者が4.8%存在する。

6－1－3　音の付加に対する意見の差（知っている－知らない）

音づくりを用いる音環境の改善手法に対する評価を「知っている」者と「知らない」者とに分けて**図6－2**に示す。「知らない」者が「多くの人が受け入れる音を使うならば良い」（21.1%），また「音を使用する場所と時間を考えるならば良

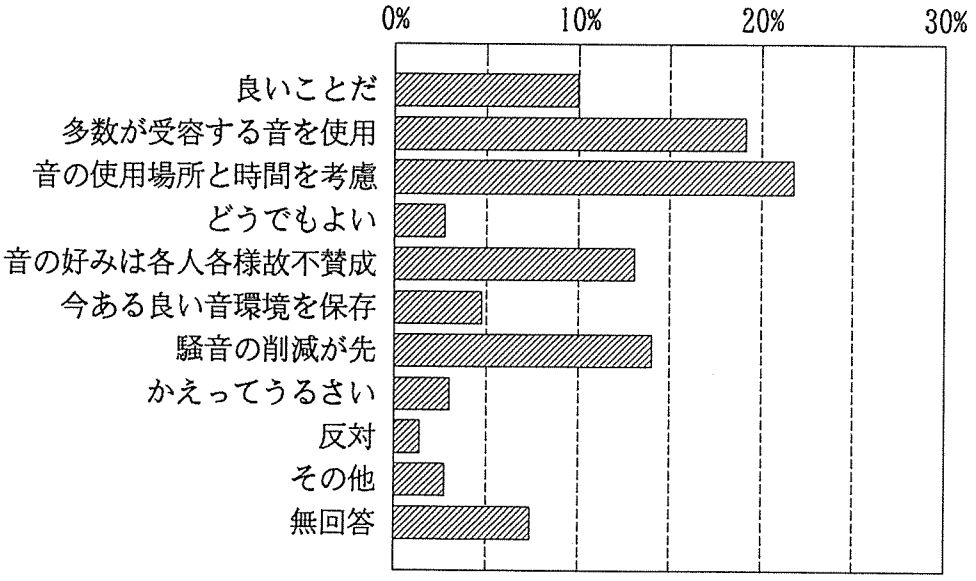

図６－１　音づくりについてどう思うか

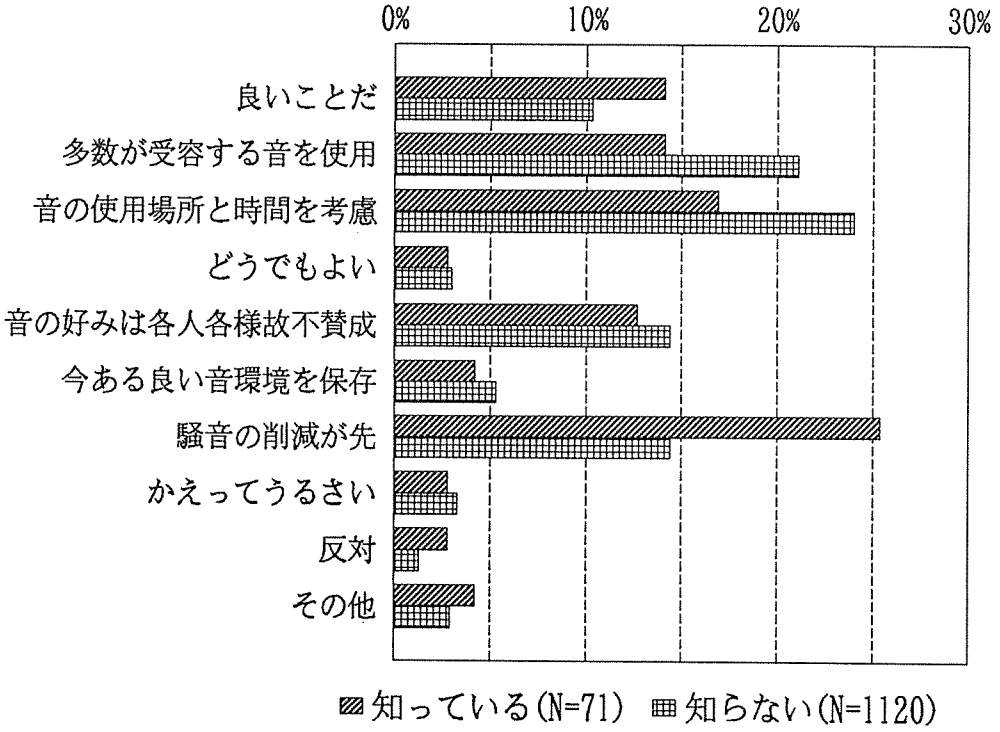

図６－２　音づくりについてどう思うか
（知っている－知らない）

い」（24%）と条件付きが多いのに対して，「知っている」者は既に述べた様に少数ではあるが，「騒音を減らすのが先だ」が25.4%で1位となり，この項で「知らない」者の14.4%と際立った差異がある。この手法を「知っている」人達が実例を実際に見たりその音を聞いたりしたのかは不明だが，「知っている」人々の賛同はあまり得られていない様である。

6－1－4　用途地域別及び年代別音の付加に対する意見の差

図6－3は音づくりに対する評価を用途地域別に示している。商業地域では“肯定的意見”，即ち「良いことだと思う」（21.1%），「多くの人が受け入れる音を使うならば良い」（28.1%），及び「音を使用する場所と時間を考えるならば良い」（19.3%）の合計が68.5%で最も多く，現在のサウンドスケープ事業が商売上の集客努力と結び付き易いことを示唆している。しかしその一方で「騒音を減らすのが先だ」が22.8%と，どこよりも高率な点が注目される。騒音を減らして現行の音を用いた信号を際立たせたいという願いか，それとも今の音の使用法が騒音それ自体であるという気持ちであろうか。仮に後者であれば，騒がしいばかりの商店街でもサウンドスケープデザインは可能と思える。この「騒音を減らすのが先だ」とする意見は，地域の静けさへの「不満」及びそれが「悪くなっている」とする比率が高い住居，近商，準工でも高率である。なお，音の付加に“肯定的意見”が最も少ない地域は準工である。日頃の騒がしさ，及び，これは横浜の特殊性かも知れぬが中小零細企業と住宅が入り組んだ準工の複雑さを反映しているのであろう。

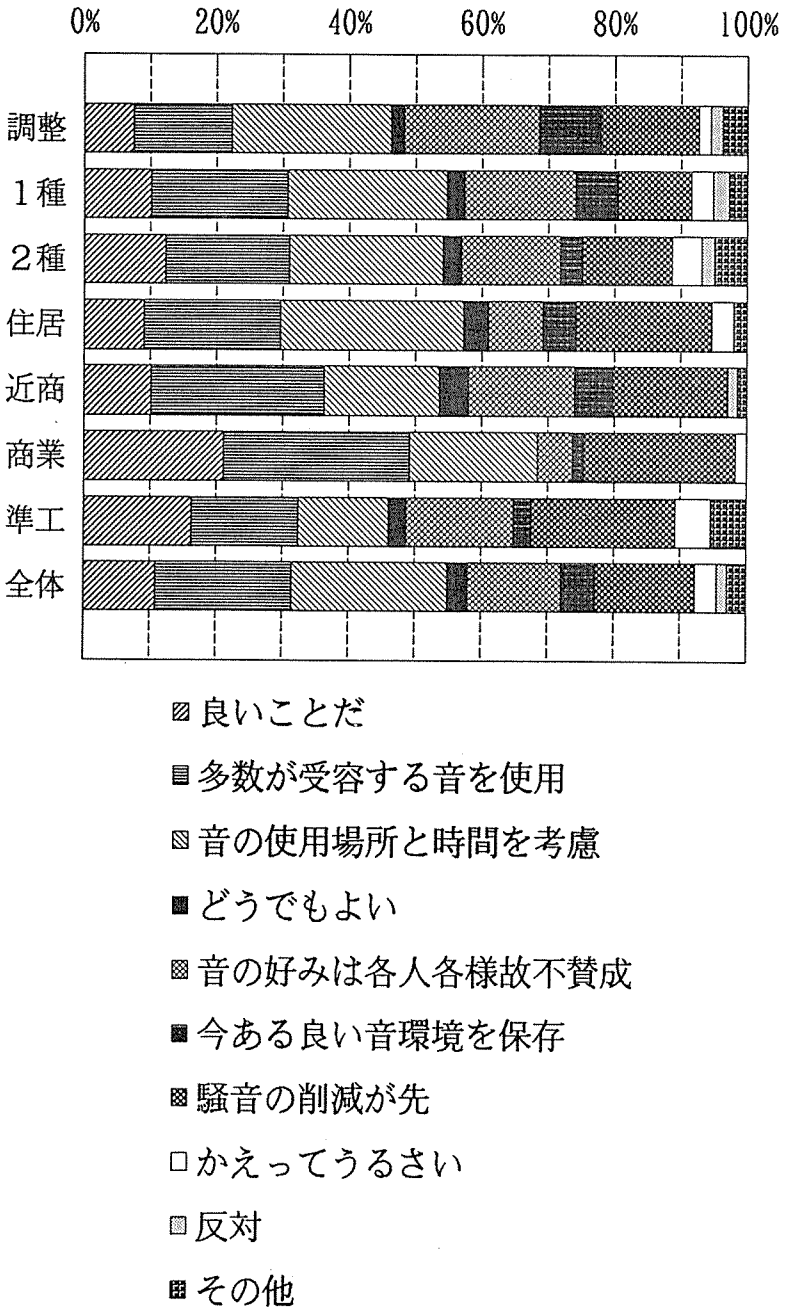

図６－３　音づくりについてどう思うか（用途地域別）

図６－４の年代別では顕著な差は無いが，「多くの人が受け入れる音を使うならば良い」は年代と共に増加するのに対し，「音を使用する場所と時間を考えるなら

ば良い」は減少する傾向にある。「多くの人が受容」は「場所と時間」よりは消極的肯定と考えられる。若い時は少々自己中心的で，それでも他人迷惑を避け「場所と時間」を指摘し，加齢と共に対人関係を大切にし「多くの人が受容」を選択する様になって行くとも言える。

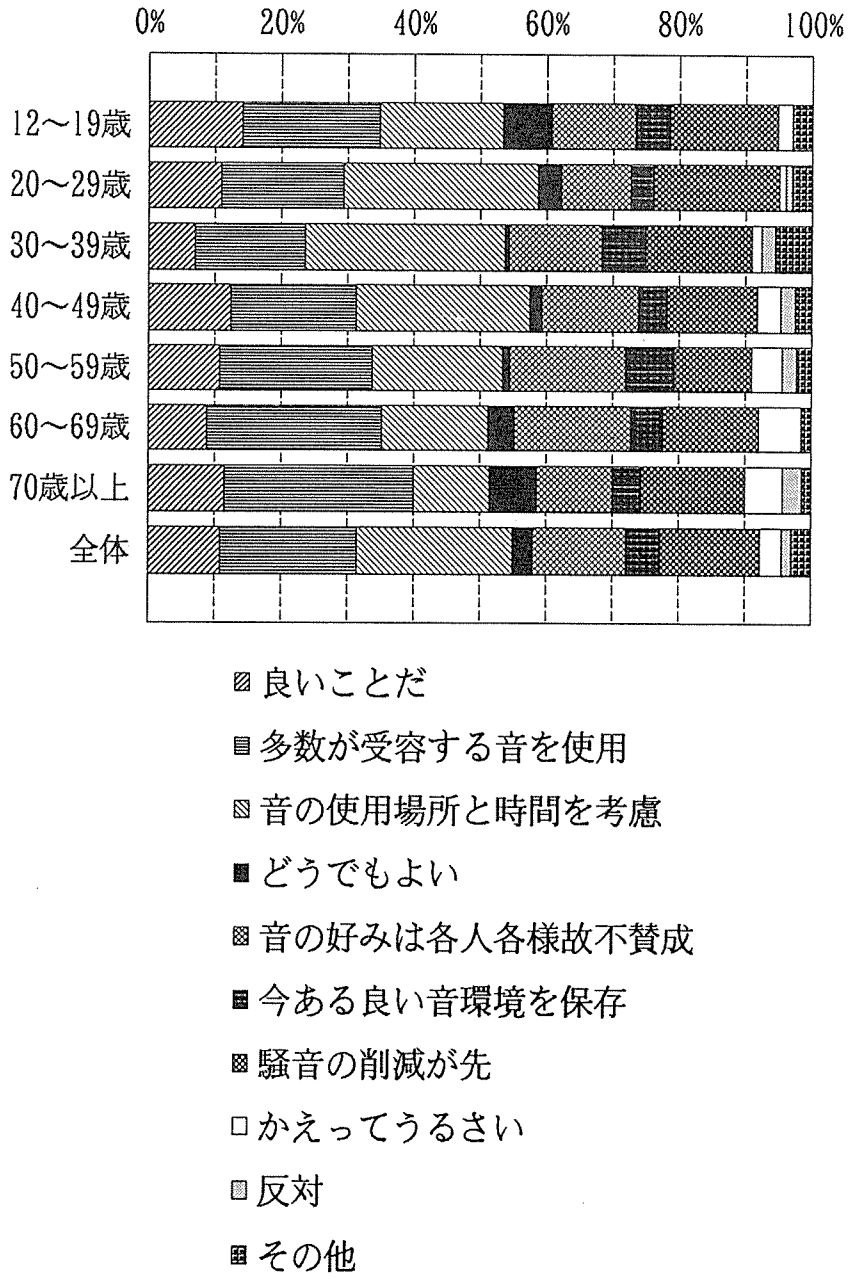

図６－４　音づくりについてどう思うか（年代別）

６－２　健常者が考える視覚障害者の音環境

質問構成では属性の次に自由回答として設けた最終質問であった（Ｑ１３．２）。障害者のために音を利用し彼らにとって良い音環境を創り出すことが，健常者の音環境を破壊するのであれば全体として良い音環境とは決して言えないであろう。音のデザインではこの点が重要と考え，将来の調査研究に向けた基礎的データを得ようと健常者としての立場の意見を求めたものである。全回答者1240人の約30％に当る363人が意見を述べており，男性が147人（40.5％），女性が216人（59.5％）となっている。**表６－１**は回答者の年代構成であるが，社会を担う20歳代から40歳代が多く意見を表明しており注目される。意見を大雑把に分類して**表６－２**に示す。表中の指摘者数には，他の内容の意見をいくつか指摘した者も含まれる。従って，回答者363人に対する割合の総計は100％を超える。

意見内容では，障害者の利便を図るために何がしかの音が必要とする意見が半数以上である。これらの意見では，「障害者の耳は情報を得るために最も重要であるから，車の音も必要」等も含め，音の付加に好意的である。但し，「情報を聴取し易くするには騒音を無くすことが先決」とする意見もある。現在の音環境では，指針とする音を騒音に負けず劣らず大きな音にする必要が生じてしまい，健常者と障害者の両方にとって音環境が悪化するだけとの意見である。確かに，障害者の安全を守るために車の音が大きい必要はどこにもない。障害者にとって真に重要な信号音を，マスキングしてしまう危険の方が大きいと思える。

音の使用法では，「小鳥や虫の自然な音」を，あるいは「心を和ませる音」を誘導や時報に用いることが望まれているが，一方，「押し付けがましいのは迷惑」，「障害者に必要だが健常者には耳障り」との意見もある。

表６－１　回答者の年代構成

年　代	人数	％
12～19歳	52	14.3
20～29歳	91	25.1
30～39歳	71	19.6
40～49歳	75	20.7
50～59歳	40	11.0
60～69歳	25	6.9
70歳以上	9	2.5
計	363	100

表６－２　健常者が考える視覚障害者の音環境
（複数指摘）

意見の内容	指摘者数（%）
何らかの音が必要	206（56.7）
指針となる音を創る	102（28.1）
騒音の無い環境へ	78（21.5）
当人・専門家に任せる	31（8.5）
指針となる音も騒音	10（2.8）
特別扱いしない	8（2.2）

注）パーセントは回答者363人に対する割合

６－３　地域（横浜市及び行政区）を象徴する音

６－３－１　集計方法

「市の木」や「市の花」等は崩壊しつつあるコミュニティーをまとめる側にとっては価値がある。上手な利用をすれば地域住民の共通基盤ともなるし，地域の環境改善の一つの支柱にもなる。そこで，ここでは地域が「音」で表現され得るものなのか否かを，横浜市と行政区を例として調査した。Ｑ６で「横浜市」と聞いて，またＱ７であなたが住んでいる「区」から思い浮かぶ「音」を自由回答で指摘させた。共に回答欄が３つ用意されてあったが，回答が４つ以上の者もいた。そこで回答した音の数で回答者を分け**表６－３**に示す。「横浜市」で約８割，回答が困難ではと思われた「区」でも半数以上が何等かの音をイメージして回答している。その音種は総計141種であったが，Ｑ３で例示した「家で聞こえる音」に誘導されていると考えられるので，その例示音を基本に２人以上が挙げた音を１カテゴリとし，１人だけの音種はその何れかに含ませ，この様に整理した71の音種（**表６－４**）を集計に用いた。

表６－３　横浜市の音と区の音への回答数別
回答者数と回答率

	回答者数			
回答数	横浜市の音		区の音	
1	463	48.4%	348	50.4%
2	298	31.1	214	31.0
3	186	19.4	122	17.7
4以上	10	1.0	7	1.0
計	957(77.2%)		691(55.7%)	
1人当り	1.7件		1.7件	

表６－４　横浜市や区から思い浮かんだ音

音　種	音　種	音　種
＊航空機	＊人の立ち話	海
＊新幹線	＊楽器	＊波
市電	猫の鳴き声	潮騒
＊鉄道	＊ペットの鳴き声	水
駅	生活	＊せせらぎ
＊車	＊祭り・盆踊り・花火	風
暴走族	雑踏・賑やかさ	＊草木のざわめき
＊パトカー等のサイレン	人の話し声	落葉
高速道路	球場の歓声	カモメの鳴き声
＊車の空ぶかし	デパートの人形時計	＊小鳥の鳴き声
チャルメラ・石焼き芋	噴水	＊カラスの鳴き声
＊ごみ収集車	動物園の動物の鳴き声	鳩の鳴き声
＊宣伝カー等	馬車	秋の虫・蛙・蝉の声
選挙演説	中華街	牛・豚の鳴き声
＊商店の営業	爆竹	＊お寺・教会の鐘
＊カラオケ	中国の笛・歌	騒音
＊工事	音としての外国語	雑音
＊工場	異国の音色	横浜市歌
サイレン	港	○○区音頭
庁舎のチャイム	ドラ	歌「赤い靴」
＊横断歩道の信号	船の警笛	ジャズ等の音楽
＊学校・幼稚園	霧笛	オルゴール
スポーツ練習の声	船の汽笛	擬音
＊子供の声	船	

＊：Ｑ３の例示音と共通する音，他は回答数が２件以上の音

６－３－２　「横浜市」の音

回答者957人の中であるカテゴリの音を挙げた人数の割合を指摘率として図６－５に示す。またＱ３と共通する音については，このＱ６の回答者でその音が聞こえるとした聞こえ率も示してある。「横浜市」の音は，やはり“ミナトヨコハマ”からイメージされる音が上位を占め，中でも「船の汽笛」は約50％と屹立している。この音は市内16の全区で１位であり，地域に無関係に大多数が思い浮かべているが，毎年の元旦午前零時を期し，港の船が一斉に鳴らす汽笛の影響もあると思える。「波の音」（16.2％），「船の音」（13.5％）がそれに続くが，それらを指摘した人々の中でも普段，家にいて「波の音」を聞いている人は僅かに6.2％，「船の音」にしても12.8％が聞いているに過ぎない。「船の汽笛」も含めこれらの音は市民の日常生活ではあまり聞こえていない音であって，聞こえ率80％が示す様に実際に聞こえている「車の音」は４位（10.6％）である。以下「カモメの声」（5.3％），

「ドラ」（5.1%）を含め，横浜の音のイメージは広い市域に比べ極く狭い“ミナト”に限定されたもので構成されている。

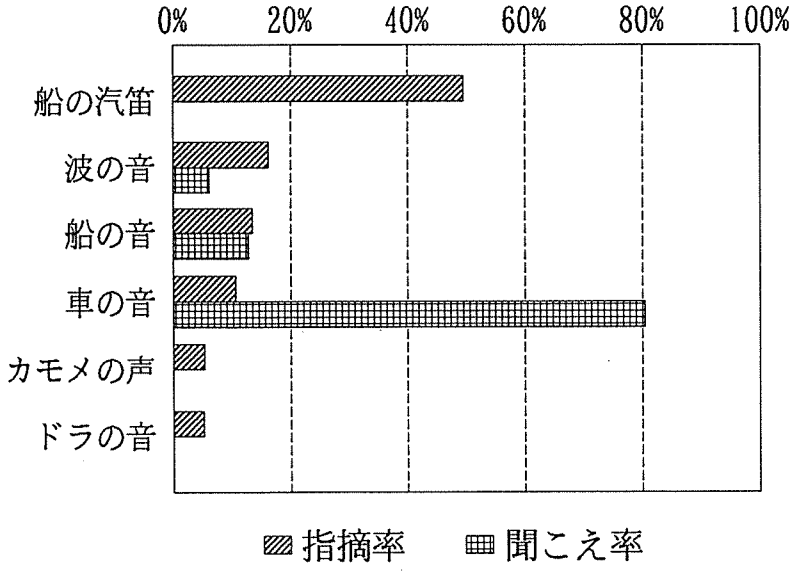

図６－５　横浜市から思い浮かぶ音（複数回答）

回答欄は３つ用意されていたと既に述べたが，この回答欄毎にまとめた「横浜市の音」の上位３位までを図６－６に示す。強いイメージの音ほど第一回答欄に記されるであろうとの考えによる整理であるが，予想通り第一回答欄で「船の汽笛」は

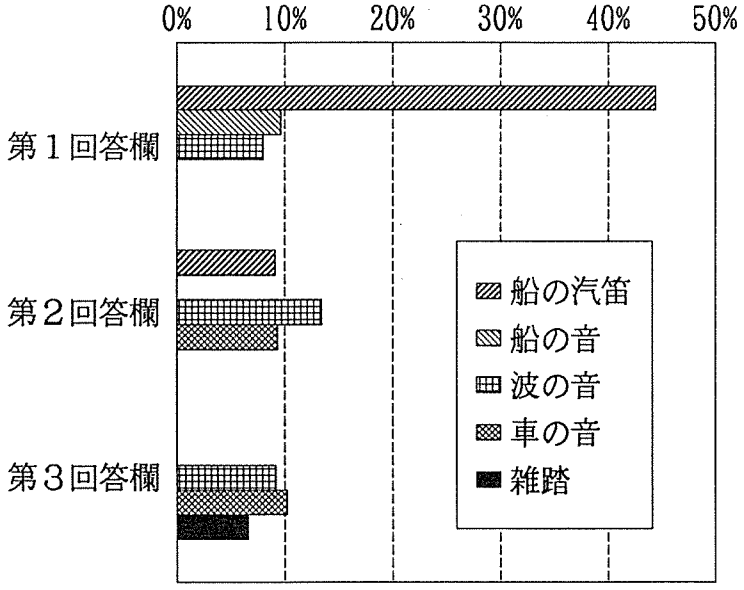

図６－６　回答欄ごとの横浜市から思い浮かぶ音
（回答欄別上位３種類，複数回答）

断然１位，２位が「船の音」３位が「波の音」である。第二回答欄では１位「波の音」２位「車の音」，３位に落ちて「船の汽笛」となっている。第三回答欄では「船の汽笛」は“入賞”していない。これを見ても，“ミナトヨコハマ”と「船の汽笛」がイメージ上でいかに強く結び付いているかが判る。極めて興味深い。

６－３－３　「区」の音

「区」から思い浮かぶ音の１～３位までを**表６－５**と**図６－７**に示す。「横浜市」のミナトをイメージする音と異なり，「車」，「小鳥」，「工場」，「工事」，「鉄道」など身近に接する音が多い。古くから開けた区域では道路網が密である事から「車」の音が主に挙げられ，特に鶴見，神奈川，西，保土ヶ谷，戸塚は“旧東海道”から発達し本市を貫通する幹線国道１号線を思い起こす。

郊外では港南，旭，栄，及び瀬谷の「小鳥」，緑の「秋の虫・蝉」の様に自然に密着した音が挙げられている。郊外でも泉区の「せせらぎ」は特異であり，区名か

表６－５　住んでいる区から思い浮かぶ音（複数回答）

区名		指摘者	１位	指摘率	２位	指摘率	３位	指摘率
1	鶴見	49人	車	52.1	工場	35.4	鐘	12.5
2	神奈川	48	車	34.4	船の汽笛	18.8	小鳥	8.3
3	西	36	車	34.4	花火	22.9	工事	17.1
4	中	37	船の汽笛	29.7	車	21.6	鐘	10.8
5	南	46	船の汽笛	44.1	花火	18.6	鉄道	11.6
6	港南	36	小鳥	25.0	車	19.5	草木のざわめき	13.9
7	保土ヶ谷	38	車	35.1	小鳥	18.9	鉄道	16.2
8	旭	40	小鳥	41.2	車	29.4	鉄道	20.6
9	磯子	44	車	22.8	小鳥	20.5	船の汽笛	15.9
10	金沢	54	鐘	25.9			小鳥	20.4
			波	25.9				
11	港北	42	車	23.8	工事	19.0	小鳥	16.7
12	緑	46	秋の虫・蝉	32.6			小鳥	26.1
			車	32.6				
13	戸塚	44	車	61.4	秋の虫・蝉	13.6	小鳥	11.4
14	栄	41	小鳥	30.8	秋の虫・蝉	25.6	車	18.0
15	泉	44	せせらぎ	30.2	小鳥	25.6	車	18.7
16	瀬谷	46	小鳥	22.2			鉄道	8.9
			航空機	22.2			秋の虫・蝉	8.9

複数回答なので各区の率の合計は100％を超える

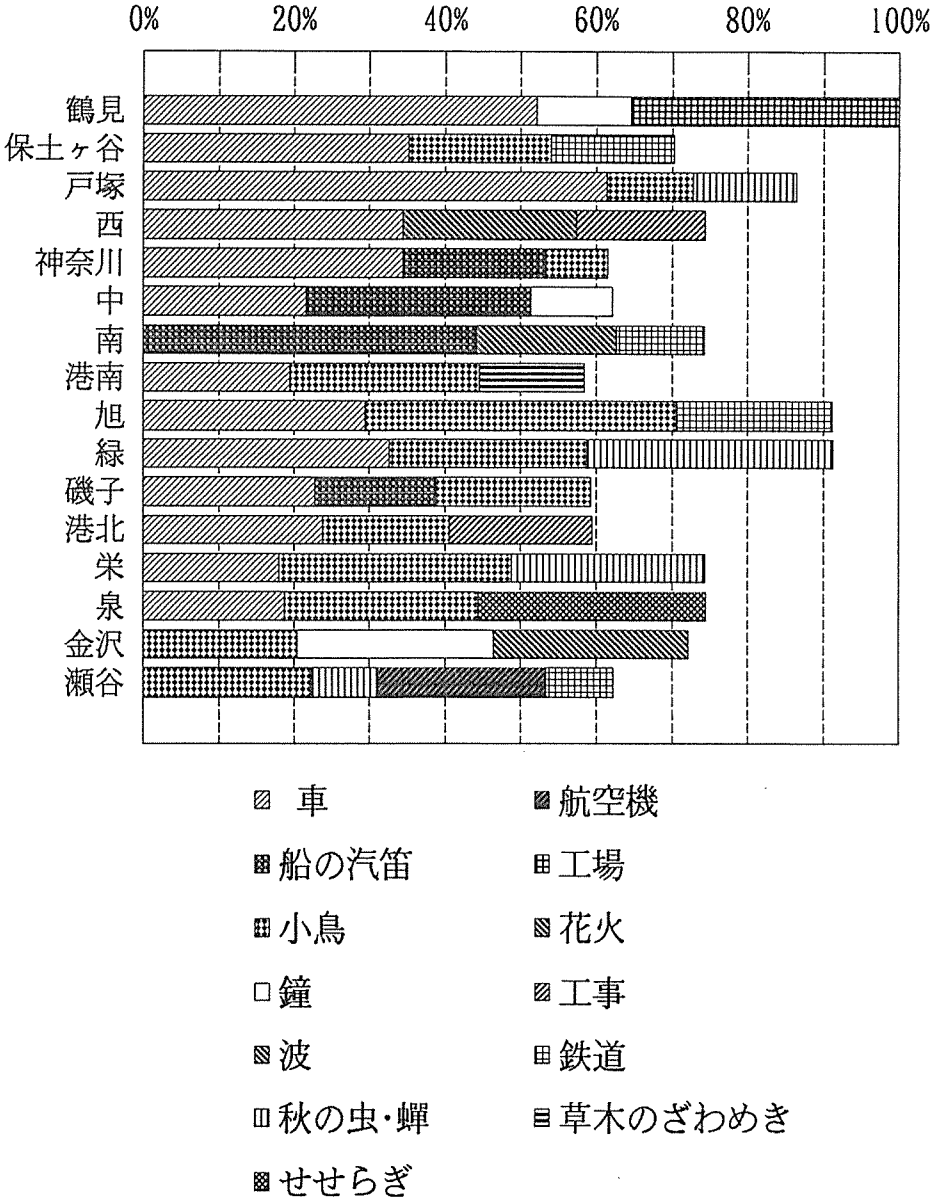

図６－７　住んでいる区から思い浮かぶ音
（各区内の上位３種類，複数回答）

らの連想かとも思われるが，同区の西端つまり市境を流れる“境川”の支流やせせらぎが多く，かつては大量の水を必要とした製糸工場がいくつもあった地域でもあり，日常実際に聞いている可能性が高い。

本市で最も古い区であり“ミナト”と共に発展して来た中区と南区の１位は，まさに「横浜の音」その物であると同時に，“子安浜”や“魚市場”で活気を呈した神奈川区の２位もこの「船の汽笛」である。

北条実時の金沢文庫で有名な称名寺を擁する金沢区の１位「鐘」も象徴的であり，

同率１位の「波」からは横浜市内で自然の砂浜を有する唯一の区であり，近年になっては人工砂浜の海浜公園が造成されたことを連想させる。

また，中区３位の「鐘」は山の手の文教地区に建つ教会やミッションスクールが，鶴見区３位の「鐘」は曹洞宗大本山総持寺が目に浮かぶ。更には，西区と南区で２位の「花火」，西方に米軍の厚木基地を抱えた瀬谷区の２位「航空機」も特徴的であり，音から眺めた“区の顔”に区の歴史と現代を様々に感じさせられる。

６－４　身近にある気に入っている音環境

Ｑ１３．１では「あなたの身近に気に入っている音環境がありましたら，その場所を教えて下さい」と質問し，自由に回答して頂いた。様々な地域に住む人々が，どの様な場所を良い音環境と認識しているのかを知り，将来，都市造り，街造りに快適音環境を導入する場合に参考にしようという目的である。但し，「あなたの身近」に限定した。広い横浜市には様々な意味の良好な音環境が存在していると考えられるが，その様な身近な場所は日常生活の一部になっていてニュースにもならず，知る人ぞ知るで一般の人々がなかなか知り得ないと思えたことが一つの理由であり，もう一つは商業ベースに乗った有名な場所に回答が集中することを避けたためである。

回答者は176人，回答率は14.2％である。ここに用いる回答には「気に入っている音環境は無い」等の意見も数例含まれるが，明らかに騒音に対して不満を述べている数件は整理の対象から外した。

６－４－１　回答者の属性

（１）　区別・回答数別

質問が興味深いものであり，例としては非常に少ないので回答者を整理しておく。**表６－６**は回答者を区別に，また一人の回答者が「気に入っている音環境」として挙げた１カ所を１件，また意見や感想を１件として計数したその件数別に示している。従って，「気に入っている音環境」の総件数は189件となる。表中のＰ１はこの質問に対する回答者176人に対する割合を示し，Ｐ２は全回答者（1240人）を区別にした内訳数を分母にした割合である。

回答率Ｐ１は栄区の10.2％が最大で，次いで南区の9.1％，最小は港南区の2.8％

となっている。地域によりかなりの開きがあると言える。

表６－６ 気に入っている音環境（区別・回答数別回答者数）

区　名	１件	２件	人数計	P1　%	P2　%
鶴見	9		9	5.1	11.8
神奈川	7	3	10	5.7	12.9
西	9		9	5.1	12.6
中	8	1	9	5.1	13.0
南	14	2	16	9.1	21.3
港南	4	1	5	2.8	5.9
保土ヶ谷	13		13	7.4	16.2
旭	12		12	6.8	14.6
磯子	10	1	11	6.3	14.4
金沢	11	2	13	7.4	16.4
港北	15		15	8.5	17.8
緑	6		6	3.4	7.7
戸塚	13	1	14	8.0	12.6
栄	17	1	18	10.2	22.7
泉	9	1	10	5.7	17.2
瀬谷	6		6	3.4	8.5
計	163	13	176	100	平均14.1

P1：回答者176人に対する割合
P2：全回答者1240人の区別内訳数に対する割合

（２）　性別

女性が回答者176人中の54.5％と半数以上である。この人数は全女性回答者の14.2％に当り，男性回答者の人数は全男性回答者の14.5％に当っている。男女間の回答傾向には殆ど差が無い。

（３）　年代別

表６－７に年代別の回答者数を示す。20歳代の回答率が最も高く，10歳代と30歳代を含め若い人たちが音環境に対して強く関心を持っている様子である。

表６－７　気に入っている音環境（年代別回答者数）

年 代	回答者数	P1 %	P2 %
12～19歳	22	12.5	15.2
20～29	45	25.6	21.5
30～39	35	19.9	16.4
40～49	27	15.3	10.9
50～59	27	15.3	14.0
60～69	15	8.5	10.9
70歳～	5	2.8	5.9
計	176	100	平均 13.5

P1：回答者176人に対する割合

P2：全回答者1240人の年代別内訳数に対する割合

（４）　用途地域別

表６－８に用途地域別の回答者数を示す。住居系回答者の回答率（P1）が高いのは全回答者の中に占める割合が元来高いためであるが，全回答者1240人の用途地域別内訳数に対する割合（P2）を見ると，調整区域と近隣商業地域で高く意外な感がする。但し，調整区域は自然を保存することが目的であるから，それらに基づいた良い音環境が多く残っていることは想像に難くない。しかし，近隣商業は狭い敷地に住居が密集した地域が殆どであり，それだけに普段から良い音環境を他に求めて出掛ける機会が多く，その環境への意識が強まっているのかも知れない。

表６－８　気に入っている音環境（用途地域別回答者数）

用途地域	回答者数	P1 %	P2 %
調整	10	5.7	17.2
１種	64	36.4	13.0
２種	41	23.3	17.2
住居	37	21	14.1
近商	15	8.5	20.0
商業	6	3.4	9.5
準工	3	1.7	7.1
計	176	100	平均 14.0

P1：回答者176人に対する割合

P2：全回答者数1240人の用途地域別内訳数に対する割合

６－４－２　気に入っている音環境の具体的な場所

（１）挙げられた件数とその特徴

回答者176人の総回答件数は189件であったが，そこから「気に入っている音環境」として公園名や地名等で明確なもの，あるいは表現から場所や事柄が特定可能なものを抽出した。結果を**表６－９**に区別に示す。身近にある「気に入っている音環境」を教えて下さいという質問であるが，具体的には108件が挙げられ総件数189の57.1％に当る。しかし，区別に見ると，港南区では件数６の内で具体名は何ら示されておらず，保土ヶ谷と栄の両区でも回答件数の割には具体名は少ない。これに対して，神奈川，南，金沢の各区では回答数も具体的な場所の指摘も多い。

これは区の特徴をある程度は反映しているであろうが，むしろ回答者が身近に接している地域の特徴を表していると解釈すべきであろう。本調査だけでその地域の特徴を明らかにすることは難しいが，「気に入っている音環境」はその地域への愛着度を強めることからも，今後深く追求すべき課題と言える。

表６－９　場所が特定される気に入っている音環境

区　名	回答数	区　名	回答数
鶴見	6（ 9）	磯子	7（12）
神奈川	10（13）	金沢	12（15）
西	6（ 9）	港北	7（15）
中	9（10）	緑	5（ 6）
南	13（18）	戸塚	7（15）
港南	0（ 6）	栄	4（19）
保土ケ谷	3（13）	泉	6（11）
旭	8（12）	瀬谷	5（ 6）
小計	55（90）	小計	53（99）
計	108（189）	57.1％（100％）	

カッコ内は区別回答件数

（２）　気に入っている音環境の分類

場所が特定された108件の「気に入っている音環境」をその内容から，「公園・市民の森」，「寺社」，「学校・デパート・ビル」，「駅・道路・橋」，「川・海」及び「その他」に分け，区毎に**表６－１０**に示す。表には，ある事柄を指摘した者が区内在住か区外在住かを示した。

指摘件数の多い３つの区に限ってその内容を簡単に述べておく。

［10件の西区］：　旧くから整備された都心の高台にあるかなり広い都市公園や，人でごった返すデパート入口のからくり時計が挙げられている。なお，日本初のサウンドスケープで知られる様になった高速道路下の西鶴屋橋は，神奈川区との境をなす川に架かっているが，橋の名の由来である鶴屋町は神奈川区に属しているので，ここではそちらへ分類した。

［12件の中区］：　横浜の開港後に，居留した外国人が山の手に根岸競馬場を造ったが，その跡地を整備した広大な公園を４人が挙げ，同じく山手外人墓地近くの有名なレストランの時報，西洋風な新しい建物でのコンサート，港にある山下公園，ギターの流しなど，少々異国情緒を感じさせる。

［12件の金沢区］：　鎌倉時代に建立された金沢文庫で有名な称名寺，及び横浜に残された陸上部と海岸部の珍しくも広大な自然を利用した公園に集中している。

指摘された108件を上記の６分類でまとめると**表６－１１**となる。「公園・市民の森」が43件で最大を示し，最も親しまれている良好な音環境と言える。「川・海」の11件を加えると半数となり，いかに自然が創り出す音が好まれるか，その音が醸し出す地域の雰囲気が好まれているかが判る。なお，具体名で複数の回答者から指摘された場所を**表６－１２**に示す。これからも，好ましい音環境のバックボーンは，自然的な静けさであると断言できる。また回答者の「気に入っている音環境」に付随した音種を**表６－１３**に示す。

表６－１０　気に入っている音環境の場所による分類（その１） （△：区内在住者の指摘，▲：区外在住者の指摘）		
１．　横浜市鶴見区（△：６，▲：０）		
公園・市民の森	**寺社**	**学校・デパート・ビル**
△△獅子ケ谷市民の森・小鳥，虫の声	△総持寺・お経の練習 △鶴見区駒岡神社	△商店街で流すクラシック
駅・道路・橋	**川・海**	**その他**
△区役所近くにある信号機の音		
２．　横浜市神奈川区（△：４，▲：２）		
公園・市民の森	**寺社**	**学校・デパート・ビル**
	△東白楽駅の近くにあるお寺の鐘の音	△神奈川大学・チャイム
駅・道路・橋	**川・海**	**その他**
△▲▲西鶴屋橋の欄干の音		△六角橋仲店商店街
３．　横浜市西区（△：５，▲：５）		
公園・市民の森	**寺社**	**学校・デパート・ビル**
△ＭＭ２１・横浜博覧会(1889年)の汐入り公園，音のでる井戸，パイプの柱 △掃部山公園・虫の声を聴く会 △境ノ谷公園 ▲野毛山公園 ▲老松中学付近の噴水公園		▲▲そごう入り口のからくり時計の音楽 △横浜美術館の広場の小鳥の声
駅・道路・橋	**川・海**	**その他**
▲横浜駅構内・音楽		△電車の線路が見渡せる七曲がりの階段
４．　横浜市中区（△：５，▲：７）		
公園・市民の森	**寺社**	**学校・デパート・ビル**
△△▲▲根岸森林公園・小鳥の声・家族の声 ▲港の見える丘公園		△マイカル本牧の２Ｆ・野外コンサートの音楽 ▲外人墓地の近くのレストラン十番館・時刻を知らせる音
駅・道路・橋	**川・海**	**その他**
▲桜木町交差点歩道 ▲元町通り・ギターひいて歌っている流し	△△山下公園・海の音，本牧埠頭・風の音と波の音と船の音 ▲大晦日～新年の汽笛	

表６－１０　気に入っている音環境の場所による分類（その２） （△：区内在住者の指摘，▲：区外在住者の指摘）		
５．　横浜市南区（△：６，▲：０）		
公園・市民の森	**寺社**	**学校・デパート・ビル**
		△横浜国大跡地周辺 △南中学校・始業を知らせる音 △小学校の運動会の音
駅・道路・橋	**川・海**	**その他**
△鎌倉街道・金・土曜日夜半の暴音	△大岡川・鳥の鳴き声と魚のピシャという跳ねる音	△清水ケ丘教会の丘の上
６．横浜市港南区（△：０，▲：３）		
公園・市民の森	**寺社**	**学校・デパート・ビル**
▲▲久良岐公園・湧き水の音・鳥の声や蝉の声		
駅・道路・橋	**川・海**	**その他**
		▲ゴミ焼却場の上
７．　横浜市保土ケ谷区（△：３，▲：５）		
公園・市民の森	**寺社**	**学校・デパート・ビル**
▲▲▲▲児童公園 ▲英連邦軍墓地		△横浜ビジネスパークの中央塔の光のロビー △近所の幼稚園と学校の子供の声
駅・道路・橋	**川・海**	**その他**
△国道１６号と横浜新道・暴走族の良い音		
８．　横浜市旭区（△：６，▲：２）		
公園・市民の森	**寺社**	**学校・デパート・ビル**
△少年の森 △▲▲大池公園・鳥のさえずり	△福泉寺・お寺の鐘 △高幡不動尊の鐘	
駅・道路・橋	**川・海**	**その他**
	△帷子川・流れの音	△四季美台・自然保護林

表６－１０　気に入っている音環境の場所による分類（その３） （△：区内在住者の指摘，▲：区外在住者の指摘）		
９．　横浜市磯子区（△：４，▲：０）		
公園・市民の森	**寺社**	**学校・デパート・ビル**
△円海山・春の小鳥のさえずり △洋光台南公園・鳥の声		
駅・道路・橋	**川・海**	**その他**
△東京方面のＪＲの発車の合図のベル △朝に音楽を流す駅		
１０．　横浜市金沢区（△：１１，▲：１）		
公園・市民の森	**寺社**	**学校・デパート・ビル**
△滝の公園 △金沢自然動物公園・小鳥のさえずり △金沢自然動物公園内植物園 △野島公園 ▲金沢自然観察の森	△△△称名寺	
駅・道路・橋	**川・海**	**その他**
	△平潟湾・船の音 △海岸（幸浦，福浦，鳥浜など） △海の公園	△金沢区釜利谷町
１１．　横浜市港北区（△：７，▲：２）		
公園・市民の森	**寺社**	**学校・デパート・ビル**
△大倉山梅林 △篠原園地の散歩道 ▲▲岸根公園の中央辺り・木々の風にそよぐ音や子供達の声		
駅・道路・橋	**川・海**	**その他**
△東神奈川～小机方面に至っている横浜上麻布線・バイク・自動車の爆音（特に夏の夜の土曜日）	△△鶴見川・水鳥や小鳥や虫の音	△大倉山記念館の周辺 △大塚製靴・蝉の鳴き声，山鳩の鳴き声

表６－１０　気に入っている音環境の場所による分類（その４） （△：区内在住者の指摘，▲：区外在住者の指摘）		
１２．　横浜市緑区（△：５，▲：２）		
公園・市民の森	**寺社**	**学校・デパート・ビル**
△△四季の森公園・木や虫の音などなつかしい音・生活の音・自然の音 △寺家ふるさと村・小鳥・蛙・虫の音 ▲三保市民の森		
駅・道路・橋	**川・海**	**その他**
△十日市場駅周辺・秋の虫の音 ▲横浜線長津田駅・ドアーが閉まる時の音楽		△赤田地区
１３．　横浜市戸塚区（△：４，▲：０）		
公園・市民の森	**寺社**	**学校・デパート・ビル**
駅・道路・橋	**川・海**	**その他**
△戸塚駅バスセンターそばの信号機 △戸塚駅バスセンター近く・小鳥の鳴く声		△吉田町・虫，蛙 △米軍深谷通信隊基地・鳥の声
１４．　横浜市栄区（△：３，▲：０）		
公園・市民の森	**寺社**	**学校・デパート・ビル**
△庄戸の上の瀬上市民の森・自然の音 △上郷市民の森・瀬上市民の森		
駅・道路・橋	**川・海**	**その他**
		△長沼～花立の方
１５．横浜市泉区（△：５，▲：０）		
公園・市民の森	**寺社**	**学校・デパート・ビル**
	△泉区上飯田，柳明自治会・お寺の鐘	△泉区役所・オルゴールの音
駅・道路・橋	**川・海**	**その他**
△相模鉄道の音は生活の音	△和泉川	△西が岡

表６－１０　気に入っている音環境の場所による分類（その５） （△：区内在住者の指摘，▲：区外在住者の指摘）		
１６．　横浜市瀬谷区（△：４，▲：１）		
公園・市民の森	**寺社**	**学校・デパート・ビル**
△三ツ境大原公園・鳥のさえずり △本郷三丁目公園 ▲瀬谷市民の森・小川のさらさら流れる音	△△最勝寺・竹林，木ざわめく音，鐘楼，秋ドングリの落ちる音	
駅・道路・橋	**川・海**	**その他**

表６－１１　気に入っている音環境の分類別件数

場　　所	指摘数
公園・市民の森に関するもの	43
寺社仏閣に関するもの	11
学校・デパート・ビルに関するもの	13
駅・道路・橋に関するもの	17
川・海に関するもの	11
その他	13

表６－１２　具体名が複数指摘された気に入っている音環境

場　所　（区名）	指摘数	場　所　（区名）	指摘数
根岸森林公園（中）	4	久良岐公園（港南）	2
児童公園（保土ヶ谷）	4	金沢自然動物公園（金沢）	2
西鶴屋橋（神奈川）	3	岸根公園（港北）	2
大池公園（旭）	3	鶴見川（港北）	2
称名寺（金沢）	3	四季の森公園（緑）	2
獅子ヶ谷市民の森（鶴見）	2	瀬上市民の森（栄）	2
デパート前のからくり時計（西）	2	最勝寺（瀬谷）	2

表６－１３　回答に表現された音種

＜自然に関する音＞	75	＜生活に関する音＞	23
鳥の声	34	寺の鐘	8
虫・蝉の声	14	木や虫の音など懐かしい音	1
蛙の声	2	生活音	3
波の音	6	商店街の音楽	1
川・湧き水の音	4	２階の便所・水道の音	1
魚のピシャッという跳ねる音	1	学校からの音	3
自然の音	5	からくり時計のオルゴール	2
風の音（木々のざわめき）	9	時刻を知らせるチャイム	4
＜交通機関に関する音＞	20	＜人に関する音＞	10
車・電車の音	5	人の声	8
船の音	2	ページをめくる音	1
バイク・自動車の爆音	3	自分が発する音	1
発車時の音楽・ベル	6	＜その他＞	7
濃霧時の霧笛・汽笛	1	静けさ	5
信号機の音	3	機械の金属音	1
＜音楽または聞かせるためにある音＞	10	夜中に聞こえる音	1
音の出る井戸・パイプの柱	1		
西鶴屋橋の欄干の音	3		
ラジオ，音楽，流し	6		

６－５　第６章のまとめ

１）　音を付加して音環境を改善する手法（サウンドスケープデザインの一種）の認知率は約６％と非常に小さい。しかし，その手法に対しては，音を使う場所や時間等の条件付きを含め半数が肯定的意見である。この手法を「知っている」，「知らない」でその意見を整理すると，「騒音を減らすのが先だ」とする意見では，「知っている」者が25.4％と１位，これに対して「知らない」者は4.4％で，ここに顕著な差がある。

２）　音の付加に最も寛容な地域は商業地域であり，賑わい作りや集客に用いようとする態度が窺えるが，「騒音を減らすのが先だ」と考えている人々もどの地域よりも多く，整理された音環境の必要性を認識している。

３）　健常者は視覚障害者のあるべき音環境に対して，様々な意見を寄せているが，障害者の利便を図るために音を使用することを大いに歓迎している。但し，そうは

言っても，これ以上の音環境の破壊をしない様にとの意見もかなりある。

4）　地域から思い浮かぶ音の存在を，広域の「横浜市」と比較的狭い「区」を例に調べた。「横浜市の音」は普段はあまり聞くことがない「ミナト・ヨコハマ」のイメージに直結した音に集中している。中でも「船の汽笛」は群を抜いており，全区で1位である。これに対し「区の音」は，現に家で聞こえる音が多くなり，しかも，各区の歴史や風土の違いがイメージする音に反映している。

5）　市民が身近で「気に入っている音環境」の殆どは自然の音に包まれた場所であり，彼らの表現によると，そこで聞こえる音の中心は「鳥の声」と「虫の音」である。複数の人々が「気に入っている」とした場所は，中区の「根岸森林公園」，保土ヶ谷区の「児童公園」，神奈川区の「西鶴屋橋」，旭区の「大池公園」，金沢区の「称名寺」等である。